

ぼくの仕事

道徳 第4学年

輪島市立河原田小学校・教諭

1 事例の概要

本校では、研究主題を『豊かな心を持ち、よりよく生きようとする子の育成』とし、『豊かな心を持つ』には「確かな学力」と「豊かな道徳性」の育成が必要であると考えた。「豊かな道徳性」とは、〈素直に感動する心・ともに生きる心・他を思いやる心・自分を見つめる心〉を持って行動することであり、これらは学校教育全体を通して育成されるものである。学校教育全体で行う道徳教育のかなめとして、「道徳の時間」がある。その役割が果たせるように道徳の授業を確保し、各教科との関連を考慮した指導の実践を重ねていくことが、「道徳の時間の充実」につながる。そうすれば、『豊かな心を持つ子ども』が育つと考えた。そのためには、道徳教育の全体計画・道徳の時間の年間指導計画の作成と学習指導の工夫改善が必要である。そこで、体験活動等を生かした授業、道徳性を知る手だてとしての評価の工夫について実践することにした。

A-1 道徳教育全体計画・道徳の時間の年間指導計画

2 実践内容

(1) 主題設定の理由

4年生になり、子どもたちは初めて行う委員会活動・給食当番（縦割り班で4、5、6年生が行う）・クラブ活動にとっても意欲的に取り組んでいた。自分のやらなければいけない仕事や当番活動に対して、お互いに声を掛け合い、忘れないようにしていた。しかし、やはり上級生に頼ることが多く、進んで仕事を見つけて取り組むことは少なかった。また、5月の学級懇談会の時、保護者から「手伝いはしてくれるのだが、自分からは進んでしてくれない。」と聞き、子どもたちは、結局自分の好きな（得意な）ことしかやっていないことがわかった。学校生活の中での数多くの勤労体験を通して、「働くこと」が誰かを助けることであると感じたり、爽快感を味わったりすることができれば、日常生活で勤労意欲につながるものと考えた。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 事前の体験活動

子どもたちは、毎年行われているPTA行事の「親子リサイクル活動」や学校行事の「ゴミ0運動」に参加した。「ゴミ0運動」では、学校周辺のゴミを全校一斉に拾う活動をしたのだが、進級したということで、両方に分かれて少人数で活動を行った。その分たくさんのゴミを拾うことができた。ゴミの分別の仕方についてもみんなで話し合い、計画を立てて実行した。事前の体験活動の中で道徳的価値に触れることによって、授業で自分の体験を想起させながら考えを深め、ねらいとする道徳的価値を自分自身とのかかわりでとらえることができると考えた。

② 展開の工夫

子どもたちは「ごみ出し」という手伝いをしたことがなく、お母さんとの約束を守らなくてはいけないと思う「ぼく」と、みんなに見られて恥ずかしい思いをする「ぼく」の心の葛藤を感じ取ることが難しかったようである。しかし、役割演技を行うことによって、自分の考えを実感を伴って発表することができた。また、「ぼく」の感じた「働くことの爽快感」に共感し、自分の生活を振り返ることによって「働くことの意義」を確かめることができた。

終末では、「ゴミ0運動」での子どもたちの様子を写真で掲示し、活動後に書いた感想文を聞くことにより、「働いた後の気持ちよさ」をそれぞれが感じていた。授業後には、『心のノート』を使って家庭での仕事の計画を立ててそれを実行し、保護者から感想を書いてもらった。

③ 評価の工夫

道徳の時間に関しては、数値などによる評価は行わない。それは道徳の特質によるもので、1時間の授業で子どもたちの変容を期待するものではない。しかし、子どもたちの道徳性の変容を知り、子どもたちのよさを見つけ励ます評価をすることはできる。評価方法として、アンケート（事前・事後）、ふりかえり（ワークシート・『心のノート』）、観察（授業中・授業後・生活の中で）、体験活動や教科学習後の感想等がある。これらの方法により子ども一人一人の考えがわかり、指導に生かすことができる。授業で書き残したものについては、「心のアルバム」にファイルし、教室内に使った場面絵や資料、子どもたちのワークシートを掲示する場所として『心の掲示板』を設け、多様な考えに触れることができるようにし、子ども自身にフィードバックできるように配慮した。

B-1 体験活動

B-2 授業の様子

3 指導の実際

	学習活動	教師の主な発問と児童の反応	☆支援 ◎評価
展開 3 5	◎ あせびっしょりになって、学校に着いた「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。 ・すっきりした。 ・ごみを集めてよかったな。 ・手はよごれたけど、片付けたら気持ちよかった。		☆進んで働いた後のすがすがしい気持ちを感じとらせるようにした。 ◎進んで働くことの喜び爽快感に気づくことができたか。 【発表】
	3 自分のことを考える。	〔「ぼく」のように自分から進んで働いたことはありますか。その時感じた事を書いてみましょう。〕 ・お手伝いした時、ほめられて、うれしかったよ。	☆勤労体験で得た成就感を想起させることでこれからの生活で進んで働く意欲を持つことができるようにした。
終末 5	4 友達の作文を聞く。	〔ごみ0運動の時の作文を読みます。〕 ・ぼくも気持ちよかった。 ・また拾いにいこう。	☆働くことの成就感を感じることができるような作文を範読した。

C-1 指導案・ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

道徳の時間と体験活動との関連を意識した授業を行うことによって、一人一人の子が体験活動で得た「爽快感」や「意欲」が、価値への自覚の深まりにつながった。そのことが、次への実践意欲につながっていくと思う。

展開の工夫として、授業後に『心のノート』を使って家庭での仕事の計画を立て、それを実行し、保護者から感想を書いてもらった。その結果、「自分にできる仕事は何だろう。」と真剣に考える子どもたちの様子がうかがえた。そして、『心のノート』を通して、保護者と道徳についての理解を図ることができたと考えている。日常生活、道徳の授業等の記録や記述の積み重ねで一人一人の良い点や可能性などを積極的に評価し、個別指導等にも生かすことができた。

(2) 課題

学校全体として、体験活動等との関連を図った全体計画や、関連指導の見直しをしながら、道徳の時間の充実を図っていくことが課題である。同時に、『心のノート』の生かし方を振り返り、さらに創意工夫し教育活動全体へと広げていくような取り組みをしていきたい。